

2020年4月17日

神奈川県知事
黒岩 祐治 殿

神奈川県保険医協会
理事長代行 田辺由紀夫
横浜市神奈川区鶴屋町
2-23-2TS プラザビル 2F

新型コロナウイルス感染症対策のさらなる強化を求める緊急要請書

県民の医療と健康確保に対する貴職のご尽力に敬意を表します。私たちは県下 6,400 名の医科歯科開業保険医で組織する団体です。県民の健康を守るため、第一線医療を担っています。

今回の新型コロナウイルス感染症対策として県としても様々な努力をされていると承知しております。しかし、現場の開業医からは悲鳴ともいえる声が当会に寄せられています。

「マスクが足りない」、「接触者相談センターに電話が繋がらない」、「明らかに肺炎があり対象患者にもかかわらず PCR 検査を断られた」、「患者減少により資金繰りが困難」、「電話問い合わせが増え事務量が増加」など現場は混乱を極めています。

その中でも開業医はできる限りの努力をし、時間帯を分け、発熱患者と他の患者と一緒にならないように工夫するなど懸命に対応しています。ただ、これらの努力も、マスクや消毒薬等の衛生材料の不足から限界になっています。

そこで、医療機関に対する支援を強めていただきたく、新型コロナウイルス感染症対策のさらなる強化を求め要請する次第です。

つきましては下記の項目に対し、緊急の対応をお願い申し上げます。

記

1. 第一線医療を支える開業医へのマスクやアルコールなどの衛生材料を至急確保し、供給すること。さらに、発熱患者への対応を行う医療機関に対しては、防護服やゴーグルなどを支給すること。
2. 開業医からの PCR 検査依頼を受けられる体制を確保すること。現状では帰国者・接触者相談センターに連絡してもかかりつけ医に戻される事例が大半となっており、明らかに肺炎を併発していても検査されない状況がある。発熱外来や PCR 検査のドライブスルー方式なども含め対応を広く検討すること。
3. 緊急事態宣言発出による外出自粛で通院患者が減少、医療機関の収入は激減し、医療崩壊と合わせて経営危機に陥っている。とりわけ開業から日が浅い医療機関は前年の収入がもともと低く「新型コロナウイルス感染症特別貸付」の対象にならず、倒産の危機に瀕している。医療機関の倒産が相次げば、地域医療の崩壊につながりかねない。医療機関への無利子の緊急融資を含めた財政支援について、遅くとも連休明けまでに緊急に対応すること。

以上

《この件に関する連絡先》
神奈川県保険医協会
電話 045-313-2111
事務局 田中・園田